

放射化学

責任者・コーディネーター	薬学教育学分野 奈良場 博昭 教授		
担当講座・学科(分野)	薬学教育学分野、高エネルギー医学研究部門、衛生化学分野		
対象学年	3	区分・時間数	講義 16.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

近年、放射性同位元素の利用は極めて多様化しており、薬学分野においても放射線や放射性医薬品を用いた診断、治療についての正しい取扱いや利用に関する知識が必要とされている。本講義では、放射線の化学的・物理的性質を理解し、人体への影響、測定方法とその原理、防護方法などを学習し、日本薬局方で規制される放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準および制度について学ぶ。更に、今後の進展が期待される核医学診断薬を用いた最新の画像診断方法についても概説する。

・教育成果（アウトカム）

放射性同位元素の物理化学的性質、電離放射線の性質、画像診断法の原理、放射性医薬品、診断用薬剤、人体への利用、健康に及ぼす影響、およびその防護に関する基礎知識を修得することで、放射線や放射性医薬品等を用いた治療および診断に関して科学的な理解が可能となる。

(ディプロマ・ポリシー：2, 4, 7, 8)

・到達目標（SBO）

1. 原子の構造と放射壊変について説明できる。
2. 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。
3. 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。
4. 核反応および放射平衡について説明できる。
5. 放射線測定の原理と利用について概説できる。
6. 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。
7. 代表的な放射性核種（天然、人工）と生体との相互作用を説明できる。
8. 電離放射線を防御する方法について概説できる。
9. 非電離放射線（紫外線、赤外線など）を列挙し、生体への影響を説明できる。
10. 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。
11. 画像診断法の物理学的基礎、原理、および有用性を説明できる。。（☆）
12. 種々の造影剤排泄の生理学的基礎と×線吸収を説明できる。。（☆）
13. 体内投与用放射性医薬品の特徴、および医療機関内での調製と臨床応用を説明できる。。（☆）

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/4	水	2	薬学教育学分野	奈良場 博昭 教授	放射化学の総論 1. 授業の全体像を把握する。
4/9	月	1	薬学教育学分野	奈良場 博昭 教授	放射能と放射線 1. 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。 2. 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。
4/13	金	4	薬学教育学分野	奈良場 博昭 教授	放射性壊変 1. 原子の構造と放射壊変について説明できる。
4/18	水	4	衛生化学分野	川崎 靖 助教	放射線の生体への影響① 1. 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。
5/2	水	4	衛生化学分野	川崎 靖 助教	放射線の生体への影響② 1. 代表的な放射性核種（天然、人工）と生体との相互作用を説明できる。
5/11	金	4	薬学教育学分野	奈良場 博昭 教授	中間テスト
5/15	火	1	高エネルギー医学研究部門	世良 耕一郎 教授	放射性核種の半減期、遮へい、放射平衡 1. 核反応および放射平衡について説明できる。
5/18	金	4	高エネルギー医学研究部門	世良 耕一郎 教授	体内投与用放射性医薬品の製造とその取り扱い 1. 画像診断法の物理学的基礎、原理、および有用性を説明する。 2. 種々の造影剤排泄の生理学的基礎と×線吸収を説明する。 3. 体内投与用放射性医薬品の特徴、および医療機関内での調製と臨床応用を説明する。
6/22	金	4	薬学教育学分野	奈良場 博昭 教授	放射線の細胞や遺伝子に対する影響 1. 放射線が細胞におよぼす影響を説明できる。 2. 放射線が遺伝子におよぼす影響を説明できる。
6/29	金	4	薬学教育学分野	奈良場 博昭 教授	放射線の管理と法規 1. 代表的な放射性医薬品の保管管理方

					法と関連法規を説明できる。 2. 電離放射線を防御する方法について概説できる。
7/4	水	3	薬学教育学分野	奈良場 博昭 教授	放射性医薬品及び非電離放射線 1. 代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。 2. 非電離放射線（紫外線、赤外線など）を列挙し、生体への影響を説明できる。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	放射薬品学	小佐野博史/他	南江堂	2015

・成績評価方法

中間テスト（30%）、定期試験（70%）を総合的に判断する。

・特記事項・その他

・予習復習のポイント
 復習として前回のプリントを確認して、毎回実施するテストを再度解くこと。予習に関しては、必要に応じて授業中に指示する。これらの学修には、最低 30 分を要する。

・試験や課題に対するフィードバック
 中間テストは、個人カルテを作成して返却する。各自の苦手な部分、学修が不十分であった部分を確認すること。確認テストは、毎回の授業で実施する。この結果は、授業内容に反映させ、理解度が不十分な部分を中心に補足説明を行う。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（東芝、RX/T9E）	1	スライド投影のため